

絶対事故は起こさないための安全意識向上につなげる講習会を開催

家庭から排出される廃棄物の収集運搬を行う市川三郷エコ協同組合（岸本利彦理事長/組合員5名）とふじかわ協業組合（小池厚一理事長/組合員4名）は、2組合合同で業務に従事する作業員を対象に講習会を開催した。

平素から、廃棄物の収集運搬業務を行うにあたり組合員各事業所では作業マニュアル、危険予知活動などを整備し労働災害事故防止対策を行っているが、講習会では、これらの重要性をより作業員に理解してもらい「行っている作業がもしかしたら危ないかもしれない」と予知、危険作業させないことを習慣づけるため、業界における事故事例の紹介や未然に防ぐためのポイントを学んだ。

講師で社会保険労務士の加藤里美氏は、「経

市川三郷エコ協同組合・

ふじかわ協業組合

営者や安全責任者など、どんなに周りが安全について説明や安全書類を整えたとしても、本人にその気がなければ効果は少ない。あまり口うるさく言い過ぎると、うんざりして余計に話を聞かなくなると思われがちだが、数回言っただけで、駄目だからと諦めずに言い続けることが有効的である。言い続けることで、作業員の考え方が変わり、自身の事故防止だけでなく、企業そのもののサービスの品質や企業力の向上に繋がっていくことを期待します。」とアドバイスがあった。

講習を終えて、ふじかわ協業組合の小池厚一理事長は「自らの作業で起こる事故をイメージする事により、頭だけでなく、感情・心で安全の大切さを感じる機会となった。これからの季節は熱中症のリスクに対しても事故防止同様に対策を行い、日々の業務に当たっていく。」と語った。



講師の加藤里美
社会保険労務士

